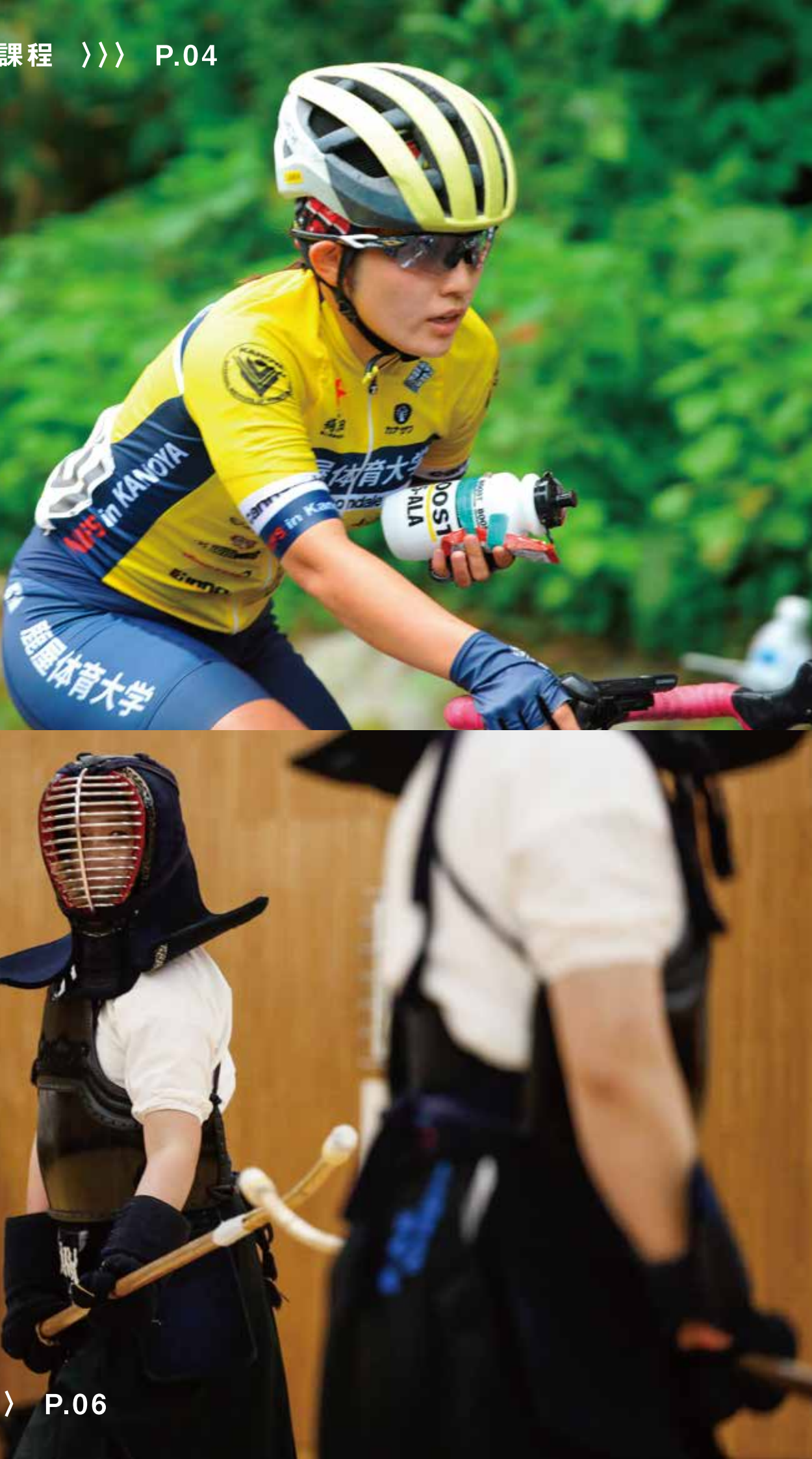


体育学部



アドミッション・ポリシー

- 1. 【体育学を学ぶための基礎的な力を身に付けている学生】
文系・理系に偏ることのない基礎学力とともに、自分の得意分野の実技能力をも身に付けている学生
- 2. 【自己表現ができる学生】
自分が身に付けた学力や実技で得た経験値を総合的に活用・応用し、スポーツ・武道および体育・健康づくりに関する新たな課題やその解決策を考察し、他者に伝えることができる学生
- 3. 【新たな課題に挑む意欲のある学生】
礼節とスポーツマンシップを身に付けた、新たな課題に進んで挑戦しようとする、感性豊かで協調性のある学生

カリキュラム・ポリシー

スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で、市民性、国際性を備えたリーダーを養成するために、課程や学生の志向性に沿って、学年進行で1.専門性の深化と充実、2.社会人としての豊かな教養の涵養、3.将来を展望し、勤労観・職業観を醸成できるための教育課程を編成しています。

ディプロマ・ポリシー

スポーツ・武道及び体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的で市民性、国際性を備えたリーダーを養成するための知識・能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位を認定します。

教育課程の編成

授業科目は原則として学期完結型の科目（学期毎に単位が取れる科目）として設定しています。ただし、一部の科目について、通年科目（1年間履修して単位がとれる科目）となっています。

	1年	2年	3年	4年	
一般科目	コミュニケーション科目				
	社会・文化・自然科目				
	総合科目				
キャリア形成科目	キャリアデザイン科目				
専門科目	基礎科目A（人文・社会・自然系）				
		基礎科目B（指導・普及系）			
		応用科目			
		実験演習科目			
	関連実技科目				
		ゼミナール（卒業研究）			
専攻科目	専修科目				
		指導実践科目			
教職科目	教職				
		専門			

- コミュニケーション科目：国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する科目
- 社会・文化・自然科目：社会の一員として、人間、社会、文化自然及び環境に関する教養や態度を涵養する科目
- 総合科目：社会の一員として、基礎的な情報リテラシー、表現的能力や討論力を身につける科目
- キャリアデザイン科目：スポーツリーダーとしての将来像と勤労観・職業観を醸成する科目
- 基礎科目A（人文・社会・自然系）：体育学の基礎となる人文・社会及び自然系の分野の内容を理解する科目
- 基礎科目B（指導・普及系）：スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目
- 応用科目：国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導し、普及させるための専門的、応用的な内容を身につける科目
- 実験演習科目：スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な科学的支援力や表現的能力を身につける科目
- 関連実技科目：スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する基礎的な実技力を身につける科目
- ゼミナール（卒業研究）：スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する関心のあるテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につける科目
- 専修科目（アスリート・コーチング系／生涯スポーツ系／武道系）：スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関して、年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や事業運営力を身につける科目
- 指導実践科目（アスリート・コーチング系／生涯スポーツ系／武道系）：専修科目等で身につけた体系的な実技指導力や事業運営力を実地的・実践的に活用し、深める科目
- 教職：中学校や高等学校の教員としての免許を取得するための教職に関する科目
- 専門：中学校や高等学校の保健体育の教員としての免許を取得するための専門（教科）に関する科目

また、授業科目は下表のように、履修（選択）の仕方により「必修科目」、「選択科目」、「自由科目」に分類されます。

区 分	科目区分の特徴（ねらい）
必修科目	単一の授業科目で、その修得が義務づけられている科目
選択科目	複数の授業科目のうちから指定する科目数又は単位数の修得が義務づけられている科目
自由科目	必修科目及び選択科目を除き、その修得を卒業認定の要件とされている科目

授業時間

1：学期と授業時間割

学年を前期（4月1日～9月30日）と後期（10月1日～3月31日）に区分し、原則として学期ごとに授業科目の設定を行います。なお、授業は、原則として各学期とも15週（試験を課す場合は16週）にわたって行います。
授業は、下表のとおり行います。集中講義や学外授業などを行うことがあります。

- 前期：4月1日～9月30日
- 後期：10月1日～3月31日

	開始	終了
第1時限（90分）	8：30	10：00
第2時限（90分）	10：10	11：40
第3時限（90分）	12：40	14：10
第4時限（90分）	14：20	15：50
第5時限（90分）	16：00	17：30

2：休業日

休業日（授業を行わない日）は次のとおりですが、休業日においても特別な場合には授業を行うことがあります。

- ① 週休日（土曜日・日曜日）及び国民の休日に関する法律に定める休日
- ② 開学記念日（10月1日）
- ③ 夏期休業日（8月1日～9月30日）
冬期休業日（12月26日～1月7日）
春期休業日（3月11日～3月31日）
- ④ その他大学が定めた日
注：休業日においても、特別な場合には講義を行うことがあります（集中講義等）。

3：授業の方法

講義、演習、実験、実習もしくは実技又はこれらの組み合わせにより実施します。また、授業は対面形式の他、遠隔形式で実施しているものもあります。
※情報活用能力の育成等のため、ノートPC、タブレット等の情報機器を必携としております。



スポーツ総合課程

スポーツ 総合課程の 目標

専攻系の 紹介

スポーツ総合課程は、体育・健康づくりに関する科学的な基礎知識や応用能力を有し、競技スポーツ、生涯スポーツ、健康づくりに関する専門的能力を、理論と実践の往還を通じて修得することにより、バイタリティーを持ち、国際社会の進展に対応できる実践的かつ創造的で、市民性を備えたりーダーの育成を目標とします。

アスリート・コーチング系

トップレベルの競技力の向上、ジュニア期からトップレベルまでのコーチングを行うことのできる人材を養成するコース。

生涯スポーツ系

健康づくりのコーディネートやスポーツクラブ等の管理運営、プログラム開発を行うことのできる人材を養成するコース。

スポーツ総合課程 3年

在学生からのメッセージ

高山 拓己

TAKAYAMA Takumi

Q1：なぜ鹿屋体育大学に？

鹿屋体育大学は、自分の専門種目に集中して取り組める環境が充実していることや、専門種目であるサッカーをトップレベルの指導者・選手の下で学び、能力や資質をより磨くことができること、そしてこれらは将来にわたって価値があると判断したからです。

Q2：今頑張っていること、目標は？

課外活動と勉強の両立です。課外活動では、日本一を目標に活動しているため、私自身もその目標に見合った努力・活動をし、日々サッカーと向き合っています。勉強では、単位取得だけでなく、好成績を維持し、さらに多言語の習得を目指して講義や自己学習に励んでいます。

Q3：好きな授業はなんですか？

鹿屋体育大学ではスポーツに関連する分野を専門的に学ぶことができます。その中でも、競技スポーツ論・実習では、自分の専門種目をより深く学ぶことができ、特にサッカーでは指導者ライセンスを取得することができます。

Q4：鹿屋体育大を目指す人に一言！

スポーツに関わる道は選手だけでなく、多岐にわたります。私自身は、選手ではなくアナリストとしてチームに貢献しています。好きなスポーツや、将来関わりたい競技の高いレベルを経験し、その環境に身を置くことは、自分の基準の向上につながります。鹿屋体育大学を目指している皆さん、各自の目標に向かって焦らず着実に、そして全力を尽くしていきましょう！

私の時間割＜1年後期＞

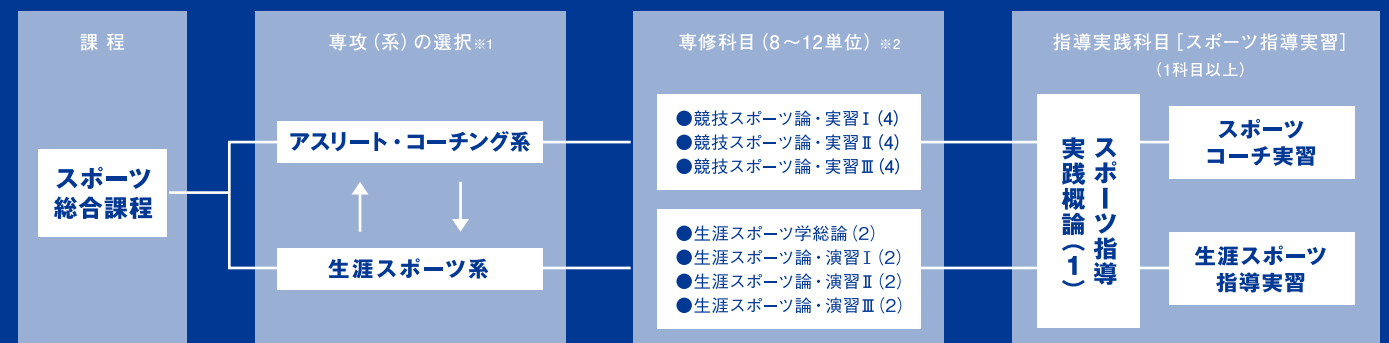
	月	火	水	木	金
1限	総合英語Ⅲ (コミュニケーションのための英文法)	スポーツ心理学	人権論		運動生理学
2限	バイオメカニクスを学ぶための物理数学	スポーツ指導実践概論 キャリアデザインⅡ		日本国憲法	特別支援教育
3限			体育学実験Ⅰ	教師論	
4限	体力トレーニング		体育学実験Ⅰ	ラグビー	競技スポーツ論・実習Ⅰ サッカー
5限			体育学実験Ⅰ		競技スポーツ論・実習Ⅰ サッカー
集中講義：生涯スポーツ学概論					

■一般選抜 ■出身校：東明館高等学校・佐賀県



専攻科目の系の選択

※1) 決められた条件の中で、1つの系以上を選択できるものとします。スポーツ総合課程では2つの系より選択できます。※2) 各系の必修科目を示しています。(注) 選択した系以外で履修可能な他系を → で示しています。() 内は単位数





武道課程

武道課程の目標

武道課程は、体育・健康づくりに関する科学的な基礎知識や応用能力を有し、我が国発祥の身体運動文化として伝承され、今日において競技文化としても広く認識されている武道、特に柔道・剣道における心と技を伝統的修練形式である稽古を通じて修得することにより、武道の精神と、国際社会の進展に対応できる実践的かつ創造的で、市民性を備えたリーダーの育成を目標とします。

専攻系の紹介

武道系

武道における「こころ」と「わざ」を伝統的修練形式により学び、武道の実技指導を行うことのできる人材を養成するコース

武道課程 2年

在学生からのメッセージ

柳沢 心

YANAGISAWA Kokoro

Q1：なぜ鹿屋体育大学に？

日本唯一の国立の体育大学であるという点。また、自身の専門科目である「なぎなた競技」の課外活動があり、競技力を向上させる設備・環境が整っているという点にひかれて鹿屋体育大学に入学しました。

Q2：今頑張っていること、目標は？

現在は将来就きたい職業のための資格の勉強と、自身の競技力の向上に努めています。目標は、インカレで優勝することです！

Q3：好きな授業はなんですか？

「体育学実験」です。項目ごとに学ぶことが変わり、鹿屋体育大学が所有するSPORTECスポーツパフォーマンス研究センターでのフォースプレートを用いた動作の分析を行う実験や測定器具を用いた、自身の最大酸素摂取量を測る実験などの、競技力向上につながる理論を学べる授業が多く、とても楽しいです！

Q4：鹿屋体育大を目指す人に一言！

鹿屋体育大学は、競技力を向上させるための設備・環境が最適に整えられています。また、体育やスポーツに関する専門的な講義が多く、自身の興味のある講義が必ず見つかるはずです。一緒に鹿屋体育大学で競技力を高めあい、学びましょう！

私の時間割＜1年前期＞

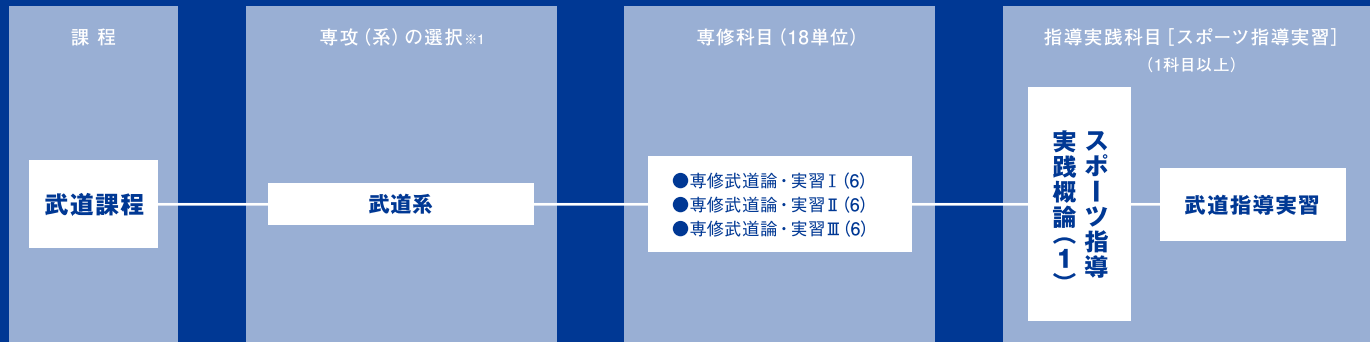
	月	火	水	木	金
1限			体育学概論	体育・スポーツ史	
2限			解剖生理学		情報処理A
3限				キャリアデザインI	ジェンダー論
4限		卓球	身体科学論	中国語	専修武道論・実習I 剣道
5限		学校と教育の歴史			専修武道論・実習I 剣道

■総合型選抜(SS)入試 ■出身校：京都府立南陽高等学校



専攻科目の系の選択

※1) 決められた条件の中で、1つの系以上を選択できるものとします。スポーツ総合課程では2つの系より選択できます。
(注) 選択した系以外で履修可能な他系を → で示しています。()内は単位数



大上 一ノ助

OUE Ichinosuke



Pick up | 注目授業

□ スポーツパフォーマンス研究論

スポーツパフォーマンス研究論は、スポーツや武道等の実践現場における活動や取り組み（スポーツパフォーマンス）を記述（可視化）→説明（解釈）→予測（仮説創出）→操作（仮説検証）する研究方法や、その研究例（実践研究）を学修します。学生は、卒業研究等において実践研究の論文の作成ができるようになるための基礎的な研究方法について理解し身につけます。



Q1：なぜ鹿屋体育大に？

以前所属していた大学を卒業し、社会科の教員免許状を取得しました。しかし、保健体育教師になる新しい夢に向かって大好きな野球をやりながら活動できる鹿屋体育大学に魅力を感じ、受験を決意しました。大学院や通信教育に行く選択もありましたが、実際の活動を通して基本的なところから学びたいと考え、3年次編入を決めました。

Q2：今頑張っていること、目標は？

野球部での活動と教員採用試験の勉強を頑張っています。野球部では学生コーチとして「成長率で勝負」を合言葉に取り組んでいます。野球部の新たな歴史を築くべく、あらゆる面から選手のサポートや部の運営に携わせていただいています。また、今年の教員採用試験の合格に向けて活動をしています。ゼミの活動でも、プレゼンテーションや小中学校への訪問などで様々な経験をさせてもらっています。

Q3：好きな授業はなんですか？

競技スポーツ論・実習の野球の授業です。これまで10年以上野球をやっていたにもかかわらず新たに学ぶことがたくさんあり、楽しく授業を受けています。また、指導者の立場になった時に生きる知識や技能を身につけることができている。競技の専門性が高くなることは、とてもやりがいと充実を感じています。

Q4：鹿屋体育大を目指す人に一言！

大自然の中で、やりたいことが全てできる、魅力のある鹿屋体育大学に、人生の4年間を捧げてみてください。学生への支援も多くあり、たくさんの方々に支えられながら、課外活動や授業、アルバイト、ゼミの活動等、充実した学生生活ができるはずです。

私の時間割＜3年前期＞

	月	火	水	木	金
1限			保健体育科 教育法Ⅰ	スポーツ 戦術実践論	
2限	海洋スポーツ	スポーツ マネジメント概論	スポーツ社会学		
3限	海洋スポーツ	スポーツ 国際開発論	ダンス		救急処置論・ 実習
4限	柔道		スポーツメンタル トレーニング論		競技スポーツ論・ 実習Ⅱ 野球
5限					競技スポーツ論・ 実習Ⅱ 野球
集中講義：ゼミナールⅡ					

■第3年次編入学 ■出身校：創価高等学校・東京都、創価大学



□ 専修武道論・実習（剣道）

専修武道論・実習（剣道）は、日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を学修全期（1年次～4年次）に渡って身につけていく科目です。本科目を1年次～4年次まで学修することによって、全日本剣道連盟公認の社会体育指導員（初級）を取得することができます。

ゼミナール Seminar

ゼミナールは、少人数の学生が指導教員の下で、お互いに質疑討論を交わし、学習成果を発表しながら専門研究領域における知識を深め、研究方法を履修していく授業形態です。3,4年次の必修科目で、各指導教員により実施されます。ここでは、数あるゼミの中から3つを紹介します。

スポーツ・武道実践科学系 中村 夏実ゼミ | 海洋スポーツといえば鹿屋体育大学！

私たちのゼミでは、海洋/水上スポーツ・水辺活動のエキスパートとなることを理想としています。研究課題は、ローイング、カヌースプリント、SUPの競技力向上、海洋スポーツ・水辺活動の健康増進効果やその普及・振興の社会的意義など多岐にわたります。様々な実践活動とフィールド中心の研究展開において、「安全の確保と高い実技スキルで活動ができること」「科学的な思考と豊富な経験値に基づき的確な言語で指導や情報伝達ができること」を大事に取り組んでいます。ゼミ生は、海洋・水上スポーツの選手が多いですが、その他の専門競技の学生も所属し、みんなで海洋・水上スポーツ活動を楽しんでいます。



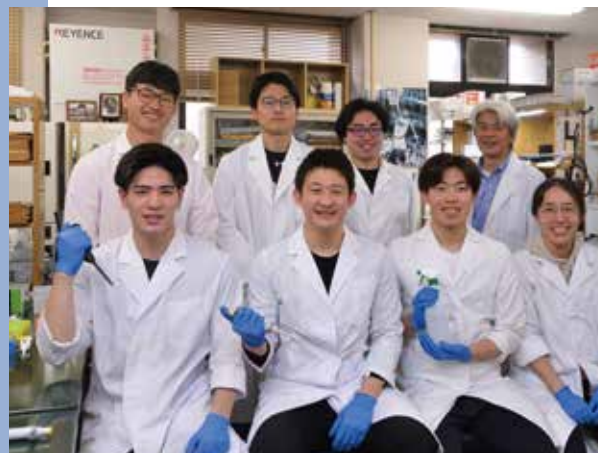
行田 朋晃さん

YUKITA Tomoaki

■総合型選抜（SS）入試
■出身校：島根県立島根中央高等学校
自身の専門競技であるカヌー競技を科学的、論理的に熟知したいと考え、中村ゼミを選択しました。ゼミでは、カヌーのパドルイング動作を運動学的視点で客観的にとらえて自身の課題を見つけ出し、その課題を解決するための効果的なトレーニング方法について探求しています。また、それらの内容を的確に言語化、説明することができるように努めています。将来は、中学生や高校生にカヌーを指導する立場に就き、ゼミで学んだ知識や考え方を生かして、的確な指導ができるようになりたいと考えています。



スポーツ生命科学系 田巻 弘之ゼミ | 現場ではたらく細胞と語らうスポーツ科学

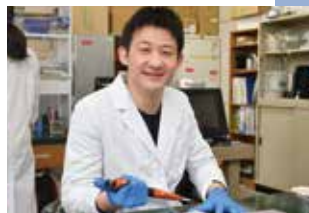


私たちのゼミでは、human & animal studyを通じて、筋肉や骨、神経系の改善や運動・トレーニングのあり方を探求する運動生理学研究を「細胞の視点」で行っています。多様な競技背景をもつ仲間が集まるので会話が新鮮で、研究内容も多様で、例えば新しいアイデアで加齢による筋萎縮や骨粗鬆症の対策に取り組むなど、幅広い年代や競技レベルで貢献する研究をしています。わからないことは優しい大学院生たちが丁寧にサポートしてくれるので、和やかな雰囲気の中で学びを深められることも魅力です。「研究やるならExcitingに!」をモットーに、自分の「?」を「!」にするchangeとchallengeを大切にしています。

満 園さん

MAN Yuan

■私費外国人留学生入試
■出身校：山東体育学院附属中学・中国
運動時の筋肉や骨、神経、ホルモンがどのように運動するのかを深く知りたくて、田巻研究室（Lab）を選びました。Labのゼミ活動では、筋細胞の顕微鏡観察やヒトの筋電図記録など多彩な実験を通じてからだの中で起こる現象が実感でき、細胞の声なき声に耳を傾ける感性を磨くことができます。将来は、ここで得た知識・技術・精神を生かして、evidence-basedなスポーツ指導や健康・リハビリテーション分野に貢献したいです。



スポーツ人文・応用社会科学系 坂口 俊哉ゼミ | アウトドアで、アウトドアについて、アウトドアのために学ぶ

私たちのゼミでは、「アウトドアスポーツを通じて社会課題を解決すること」「アウトドアスポーツで生じた社会課題を解決すること」を共通のテーマとした研究・実践活動を行っています。自然体験活動のサポートや、防災イベントへのプログラム提供など、実践を通じた学びの機会から各自の視野を広げ、得られた問題意識を研究に繋げることがゼミの目標になっています。2024年度は、スポーツ庁主催の「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション」にゼミ生がエントリーして優秀賞を受賞しました。こうしたコンペティションへの積極的なチャレンジを通じて、ゼミ生同士のコミュニケーションを活性化し、実践的な学びに繋げることもゼミ活動の一部となっています。



植木 一喜さん

UEKI Kazuki

■学校推薦型選抜
■出身校：鹿児島県立大口高等学校
キャンプ好き!アウトドア楽しそう!という直感で坂口ゼミに入りました。ゼミのメンバーは所属する課外活動がバラバラです。だからこそお互いに「異なる視点」を持って、意見交換ができることが魅力であると感じています。この1年間はイベントの企画運営や、ボランティア実践の中で、地域社会の現状と抱える課題を確認できました。今後は子どもの「自然体験格差」を是正するためのプロジェクト(学生コンペティション優秀賞)を実践していきます。

